

2 専門基礎分野

科目名	単位数	時間数
解剖生理学Ⅰ	1	30
解剖生理学Ⅱ	1	30
解剖生理学Ⅲ	1	15
生化学	1	30
栄養学	1	30
臨床物理学	1	15
微生物学	1	30
病理学	1	30
病気の成り立ちと生活Ⅰ	1	15
病気の成り立ちと生活Ⅱ	1	30
健康障害と治療Ⅰ	1	30
健康障害と治療Ⅱ	1	30
健康障害と治療Ⅲ	1	30
臨床推論	1	15
薬理学	1	30
臨床心理学	1	30
医療概論	1	15
公衆衛生学	1	30
社会福祉	2	30
関係法規	2	30

授業科目	解剖生理学 I	担当講師	坂本 尚志 嶋宮 典子他	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(30)
授業のねらい					
<p>看護の視点で人体をみつめることができるようになるために、正常人体の形態(解剖学)を機能(生理学)と関連付けて理解することを目的とする。</p> <p>①呼吸と血液の循環：身体各部の組織、器官を構成する各々の細胞が「生きている」ために必須である酸素を摂取し、各組織に供給するプロセスを理解する。</p> <p>②体液の調節と尿の生成：「生きている」ために消費したエネルギー代謝の結果生じた不要な物質の排泄のプロセスを理解する。</p> <p>③栄養の消化と吸収：「生きている」ためのエネルギー源を取り込み、エネルギーを獲得するプロセスを理解する。</p> <p>到達目標：主要器官(消化器、呼吸器、循環器、泌尿生殖器、内分泌腺、感覚器、筋、中枢・末梢神経等)の巨視的ならびに微細構造について、機能と関連付けて説明できる。</p>					
授業計画					
時間	主題	項目	担当		
1~4	解剖生理学総論	解剖生理学を学ぶための基礎知識 ①人体の名称と臓器の位置 ②各臓器の主な役割	嶋宮他		
5~14	呼吸と血液の循環 I 呼吸と血液の循環 II 呼吸と血液の循環 III	呼吸器の解剖 呼吸機能・呼吸調整のメカニズム・呼吸運動と神経支配 循環器(心臓、血管)の解剖 血液の生理 心臓のポンプ作用・刺激伝導系・心臓と自律神経	坂本		
15~20	体液の調整と尿の生成	腎・泌尿器の解剖 体液の平衡の維持・代謝産物の排泄のメカニズム			
21~28	栄養の消化と吸収	消化器の解剖 栄養素の消化と吸収のメカニズム			
29~30	試験	排便のメカニズム			
授業方法					
<p>解剖生理学総論はグループ学習とし、解剖生理学を学ぶ上での基本的知識の理解とする。</p> <p>原則として黒板板書は行わないが、その内容はプリントして配布するので、授業中は内容の理解に努めること。</p> <p>図譜等の参照は教科書を用いるので、あらかじめ関連項目について予習しておくことが望ましい。</p> <p>学習効果を助けるために、プリント課題(小冊子)を配布するので、授業の進行に合わせた指示に従って、自己学習を行い、提出すること。</p>					
評価方法	成績評価は定期試験の成績により判定する。試験問題は、○×および穴埋め形式で出題する。				
教科書 参考書 など	教科書：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 看護形態機能学 ワークブック 菱沼典子 日本看護協会出版会				
備考					

授業科目	解剖生理学Ⅱ	担当講師	坂本 尚志	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(30)
<p>授業のねらい</p> <p>看護の視点で人体をみつめることができるようになるために、正常人体の形態(解剖学)を機能(生理学)と関連付けて理解することを目的とする。</p> <p>①からだの支持と運動：ヒトの生活行動をするための構造や機能を理解する。 ②情報の受容と処理：外界からの情報を処理して各部へ指令を出す仕組みを理解する。</p> <p>到達目標：主要器官(消化器、呼吸器、循環器、泌尿生殖器、内分泌腺、感覚器、筋、中枢・末梢神経等)の巨視的ならびに微細構造について、機能と関連付けて説明できる。</p>					
授業計画					
時間	主題	項目			
1～16	からだの支持と運動Ⅰ からだの支持と運動Ⅱ	骨の解剖 筋の解剖 骨格筋・平滑筋・心筋の生理、ヒトの運動障害			
17～22	情報の受容と処理Ⅰ	中枢・末梢神経系の解神経系の基礎知識 中枢神経系の高次脳機能			
23～28	情報の受容と処理Ⅱ	感覚器の解剖 感覚器の生理			
29～30	試験				
授業方法					
<p>原則として黒板板書は行わないが、その内容はプリントして配布するので、授業中は内容の理解に努めること。</p> <p>図譜等の参照は教科書を用いるので、あらかじめ関連項目について予習しておくことが望ましい。学習効果を助けるために、ビデオ等を用いることもある。</p>					
評価方法	成績評価は定期試験の成績により判定する。試験問題は、○×および穴埋め形式で出題する。				
教科書 参考書 など	教科書：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 看護形態機能学 ワークブック 菱沼典子 日本看護協会出版会				
備考	短時間の集中講義の形態なので、解剖学に関する知識を予め予習しておくことが望ましい。各項目について行動目標は別途事前に配布する予定なので、自らの学習効果を確認する指標とすること。				

授業科目	解剖生理学Ⅲ	担当講師	坂本 尚志	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(15)
<p>授業のねらい</p> <p>看護の視点で人体をみつめることができるようになるために、正常人体の形態(解剖学)を機能(生理学)と関連付けて理解することを目的とする。</p> <p>①内分泌：生体機能の統合的調節要素であるホルモンの作用とそれらの分泌調整について理解する。 ②代謝・体温：生体機能を維持する代謝と体温の調節機序について理解する。 ③生殖：種の保存のための生理機能である生殖機序について理解する。</p> <p>到達目標：主要器官(消化器、呼吸器、循環器、泌尿生殖器、内分泌腺、感覚器、筋、中枢・末梢神経等)の巨視的ならびに微細構造について、機能と関連付けて説明できる。</p>					
授業計画					
時間	主題	項目			
1～6	内分泌	ホルモンの特徴と作用機序 内分泌に関する臓器の構造 ホルモン分泌の調整			
7～10	代謝・体温	体温調節の仕組み 生体防御機構 代謝の仕組み			
11～14	生殖	生殖器の解剖 生殖機能			
15	試験				
<p>授業方法</p> <p>原則として黒板板書は行わないが、その内容はプリントして配布するので、授業中は内容の理解に努めること。 図譜等の参照は教科書を用いるので、あらかじめ関連項目について予習しておくことが望ましい。</p>					
評価方法	成績評価は定期試験の成績により判定する。試験問題は、○×および穴埋め形式で出題する。				
教科書 参考書 など	教科書：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 看護形態機能学 ワークブック 菱沼典子 日本看護協会出版会				
備考					

授業科目	生化学	担当講師	田邊 宏基	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(30)
授業のねらい					
<p>身体を構成している物質の構造と体内で行われている主要な代謝を分子レベルで理解することを目標とする。この目標を達成するため、以下の点に留意する。</p> <p>① 身体はどのような分子によって作られているのかを常に意識する。</p> <p>② 食物が自分の体に必要なものに変換する過程を化学的に考える。</p> <p>③ これらの変換を司る酵素、遺伝子及び細胞内小器官の動きをイメージする。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 生化学の概要 2 細胞および細胞内小器官 3 酵素と代謝 4 糖質の代謝(解糖系、TCA回路、電子伝導系) 5 糖質の代謝(糖新生、ペントースリン酸経路) 6 脂質の代謝(β酸化、脂肪酸合成、ケトン体代謝) 7 脂質の代謝(コレステロール代謝、リン脂質代謝、体内輸送) 8 たんぱく質・アミノ酸の代謝(アミノ基転移、脱アミノ反応) 9 たんぱく質・アミノ酸の代謝(尿素サイクル) 10 遺伝情報とたんぱく質合成(プリン体およびピリミジンの合成と分解) 11 遺伝情報とたんぱく質合成(転写および翻訳) 12 その他重要な代謝(ヘム、アラキドン酸) 13 ホルモンとシグナル伝達 14 疾患の生化学的な理解 15 まとめ 					
授業方法					
<p>教科書を中心に講義を行い、配付資料で補完する。 小テストを実施する。</p>					
評価方法	筆記試験				
教科書 参考書 など	教科書：よくわかる専門基礎講座 生化学 津田道雄 金原出版				
備考					

授業科目	栄養学	担当講師	笠井 寛和 千葉 昌樹	対象学年	2年生
				単位数(時間)	1(30)
授業のねらい					
<p>人体にとっての栄養の意義を理解し、栄養素のはたらき、消化・吸収および代謝、栄養状態の評価方法、各ライフステージの特性による栄養状態の変化について学習する。</p> <p>また、生活習慣病や低栄養障害は今日の重要な栄養問題であり、その予防や治療については医療の実践活動においても必要な基礎知識であるので、食事療法および栄養管理について学ぶ。</p>					
授業計画					
時間	項目			担当	配点
20	1 栄養学で何を学ぶか？ 2 食べ物と栄養 3 からだの仕組み 4 消化吸収と栄養素の働き 1 5 消化吸収と栄養素の働き 2 6 ライフステージの栄養 1 7 ライフステージの栄養 2 8 エネルギー代謝 9 食事摂取基準 1 10 食事摂取基準 2 11 健康の維持と栄養			笠井	70点 60分
8	12 栄養マネジメント 1 13 栄養マネジメント 2 14 疾病と個別対応 15 栄養サポート			千葉	30点 30分
授業方法					
教科書を中心に授業を進める。(必要に応じ資料を配付する)					
評価方法	筆記試験で評価する。				
教科書 参考書 など	教科書：よくわかる専門基礎講座 栄養学 津田とみ著 金原出版株式会社 8訂 食品成分表 2023 香川明夫 女子栄養大学出版部				
備考					

授業科目	臨床物理学	担当講師	多田 旭男	対象学年	3年生
				単位数(時間)	1(15)
<p>授業のねらい</p> <p>看護は実践の科学であり、主要な位置をしめる看護技術は安全・安楽に提供されなければならない。そのためには、看護技術における行為の意味や原理を理解して実施することが重要である。そこで、日常生活や看護場面における現象と物理学の関連を学び、看護技術につなげる。</p>					
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 バイオメカニクスの基礎 物体の運動とその法則、エネルギーと仕事、摩擦、物体の回転、物体の静止平衡（重心、安定性）、物体の動的平衡、てこ、滑車、固体の弾性、圧力 2 看護・介護の biomechanics 姿勢・動作・運動の力学的仕組み、身体を動かす仕組み、日常動作・スポーツの力学、看護・介護の姿勢・動作、牽引療法、マッサージ 3 熱、体温、電法 熱と温度、体温計、潜熱（気化熱、融解熱、昇化熱）、熱伝導、人体におけるエネルギーの供給・消費、体熱と体温調節、温熱・寒冷療法 4 流体と呼吸・循環・吸引・医療 流体（層流と乱流、流れの速度と圧力、ベンチュリー効果、浮力）、気圧、水圧、サイフォン、気体と呼吸器、注射・点滴静脈注射、吸引、血液循環・血圧、健康・医療と流体 5 音・光と医療 波、音波・超音波、防音、光（可視光線、赤外線、紫外線）、音波と医療、光と医療 6 電気・磁気と生活・人体・医療 電気（静電気、電気伝導）、磁気（磁石、電磁誘導）、各種電気器具、生体・器官・組織と電気・磁気、医療と電気・磁気 7 画像検査の物理科学 物質と原子、原子核崩壊と放射線、X線診断、MRI、PET診断、核医学診断、放射線治療、粒子線治療、放射線防護 					
<p>授業方法</p> <p>講義と演習</p>					
評価方法	学習姿勢（予習、授業中の質疑応答、復習）、記述試験				
教科書 参考書 など	<p>教科書：ヘルプフル！看護・介護と物理 一掴が分かって自信がつくー 多田旭男 三共出版</p> <p>参考書：看護に生かす物理学 前田昌信 医学書院</p> <p>ベットサイドを科学するー看護に生かす物理学ー 平田雅子 学習研究社</p>				
備考	「知的な興味・好奇心」をもって自発的に勉強するとともに、知識を活用して実際的な問題に挑戦し、解決する喜びを味わい、成功体験を積み重ねて欲しい。				

授業科目	微生物学	担当講師	東 直記	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(30)
授業のねらい 細菌・真菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、ウイルスからなる病原微生物の性状を理解し、これらの微生物の繁殖と生体応答との相互関係から起こる感染症の発症機序を把握する。この基盤の上に、将来、医療従事者として看護の場において、感染症から患者を守り癒すにはどうすべきかを考え、系統立てて統合し、医療の進歩による感染症の変遷に常に対応し得る実践能力を身につける。					
授業計画 講義：微生物学の基礎では、各微生物の形態と構造並びに諸性状を学び、生体への感染過程の諸条件を把握し、この微生物感染を抑える諸手段について理解する。次いで、微生物の侵入に対する生体反応としての免疫学を理解する。この基盤に立って、個々の病原性、並びにこの微生物によって引き起こされる感染症のからくりを総合的に理解する。 I 微生物学の基礎 1 微生物と微生物学 2 細菌の性質 3 真菌の性質 4 原虫の性質 5 ウイルスの性質 II 感染とその防御 1 感染と感染症 2 感染に対する生体防衛機構 3 感染源・感染経路からみた感染症 4 感染症の予防 5 感染症の診断 6 感染症の治療 7 感染症の現状と対策 III 主な病原微生物 1 病原細菌と細菌感染症 2 病原真菌と真菌感染症 3 病原原虫と原虫感染症 4 おもなウイルスとウイルス感染症					
授業方法 講義は板書、配付資料、スライドなどによって行う。質問は講義時間中及び終了後に随時受け付ける。					
評価方法	筆記試験				
教科書 参考書 など	教科書：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[4]微生物学 医学書院				
備考					

授業科目	病理学	担当講師	丸川 活司 近藤 啓	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(30)
授業のねらい					
<p>人の健康や医療に従事する者は、病気について深い理解が必要である。病理学では、医療従事者として知っておかなければならない病気の基本的概念・本態、原因、経過・転帰について、基本的な事項を学ぶ。また、各系統別の疾患に共通な病気の概念について、解剖生理学的知識を背景に学ぶ。</p> <p>病理学の基本事項を知ることは、臨床医学、看護学にも通じる必須の過程であり、興味をもって病理学を学ぶことは、人体に起こる病的な現象を理解する上できわめて重要です。</p>					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 病理学で学ぶこと <ol style="list-style-type: none"> 1) 病気と自然治癒力・ホメオスタシス 2) 医学における病理学の位置づけ、医療における病理学の役割 3) 病気の原因 2 細胞・組織の障害と修復 <ol style="list-style-type: none"> 1) 細胞の損傷と適応(萎縮・肥大・化生) 2) 細胞の死と細胞・組織の変性 3) 組織の治癒と創傷治癒 3 循環障害 <ol style="list-style-type: none"> 1) 循環系の概要(体液、循環系) 2) 出血(破綻性・漏出性)と止血 3) 血栓症・塞栓症 4) 虚血と梗塞 5) ショック(分類・症状と病態) 6) 高血圧症(高血圧の分類・血圧の調整・動脈硬化・臓器障害) 7) 播種性血管内凝固症候群 4 炎症と免疫、移植と再生医療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 炎症とは 2) 炎症の各型 3) 免疫の概要 4) 免疫不全と代表的な自己免疫疾患 5) 移植と拒絶反応 5 代謝異常 <ol style="list-style-type: none"> 1) 代謝とは 2) 脂質代謝異常 3) タンパク代謝異常 4) 糖尿病 5) その他の代謝異常 6) 先天異常と遺伝子異常 <ol style="list-style-type: none"> 1) 人の染色体と遺伝子の損傷と修復 2) 先天奇形 3) 胎児の障害 4) 染色体異常 5) 遺伝情報の変化と疾患 6) 単一遺伝子の異常に及ぼす疾患 7) 診断と治療、カウンセリング 7) 腫瘍 <ol style="list-style-type: none"> 1) 腫瘍の定義と分類 2) 悪性腫瘍の広がり(増殖・浸潤・転移・播種) 3) 悪性腫瘍の宿主への影響 4) 腫瘍の発生病理(発生病序・発生病因) 5) 診断と治療 				
授業方法					
評価方法	講義終了後の筆記試験(丸川:40点、近藤60点)				
教科書 参考書 など	教科書:系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1]病理学 医学書院				
備考					

授業科目	病気の成り立ちと生活 I	担当講師	武田 耕一郎他	対象学年	1 年生
				単位数 (時間)	1 (15)
授業のねらい					
<p>ナイチンゲールは「病気とは、毒されたり、衰えたりする過程を癒やそうとする自然の努力の現れであり、それは何週間も何ヶ月も、ときには何年も以前から気づかれずに始まっていて、このように進んで来た以前からの過程の、その時々の結果として現れたのが病気という現象である」と述べている。対象の異常な状態に着目するのではなく、人間を生活者として全人的に見つめ、生きて生活している健康な状態が異常な状態に至る経過に着目し、回復を促進させるための生活調整の方向性を見出すために病気を理解する。そのためには、健康な状態を理解することが大事である。この科目では、既習の解剖生理を看護の視点で理解することを目的とする。</p>					
授業計画					
項目	目標	内容		担当	
人間を統合する脳の働き	人間の脳の特徴とその機能を理解できる	<p>各項目の代表的な臓器について以下の内容でグループ学習する。</p> <p>①その臓器はどのような体のどこにあるのか、またどのような構造となっているのか？</p> <p>②人間が生きて生活していくうえで、その臓器はどのような働き（役割）をしているところなのか？</p> <p>③その臓器の働きはどのように調整されているのだろうか？（生きて生活するうえで、その臓器が上手く働くための仕組み）</p> <p>④その臓器がよい状態で働くための生活の仕方は？</p>		武田 他	
生活過程をつくりだす働きと行動範囲を拡大する働き	運動機能の特徴とその機能を理解できる				
統一体を支える免疫機能	細胞やウイルスなどの外敵から自分を守るメカニズムについて理解できる				
生命を維持する働き	生命を維持する臓器の特徴とその機能を理解できる				
食物を消化、吸収する働き	細胞のつくりかえの土台となる食物摂取・消化・吸収・排泄に関する臓器の特徴と機能を理解できる				
内部環境を維持する働き	内部環境に関する臓器の特徴と機能について理解できる				
授業方法	グループ学習				
評価方法	筆記試験（60点）、グループ発表（40点）				
教科書 参考書 など	その都度、参考文献を紹介する				
備考	「病気の成り立ちと生活 I」で学んだことを「病気の成り立ちと生活 II」で活用するためグループ発表資料は捨てないようにしてください。				

授業科目	病気の成り立ちと生活Ⅱ	担当講師	江藏 祥平 他	対象学年	2年生
				単位数(時間)	1(30)

授業のねらい

対象の異常な状態(病気)に着目するのではなく、人間を生活者として全人的に見つめ、生きて生活している健康な状態が異常な状態に至る経過とその変化に着目し、回復を促進させるための生活調整の方向性を見出すために病気を理解する。

目標

ライフサイクルにおける病気の現れを概観し、成人期と老年期に現れやすい疾患の臓器の病変と患者の生活習慣の関連および疾病の回復促進について学ぶ。

授業計画

項目	目標	内容	時間	担当
看護の視点で病気をとらえる	看護の視点で病気をとらえることを理解する。	1 看護の視点で病気をとらえることの意義 1) 看護の視点とは 2 看護の視点から病気を分類する 1) 病気についての医学モデルと看護学モデル 2) 人間のライフサイクルと病気の現れ 3) 病気の共通性と相違性 3 病む人への看護学的視点 1) 全体像モデルから立体像モデル	1	田村
	看護の立場から病気をみる視点、疾病の成立と回復促進について理解する。	1 目の前の異常な状態(病気)を健康な状態からの変化としてとらえる (病気をとらえる第1の視点) 1) 異常な状態が起こってしまった部位の健康な状態の時の形態と機能 2) 異常な状態(病気)に至るプロセス 2 健康な状態から異常な状態への変化のプロセスを24時間の生活との関連で見る (病気をとらえる第2の視点) 1) 生活過程の特徴から、その患者の24時間の生活をイメージする 2) 健康状態が変化した局面の24時間の生活を具体的に想像し、回復過程を妨げているものと促進させているものを発見する 3 回復促進のための生活調整の方向性とその根拠を探る (病気をとらえる第3の視点)	3	
きす人の間 の脳を 害の統 働合	人間の脳の特徴とその機能の障害を生活過程との関連で理解する。	各項目の代表疾患について以下の内容でグループ学習する。 1 健康な状態からの変化としてとらえる 1) 異常な状態が起こってしまった部位の健康な状態の時の形態と機能 ①人間が生きて生活していくうえで本来はどのような働きをしているところなのか? ②その部位は健康な状態を維持していくために生体はどのようにしてバランスをとっているか? 2) 異常な状態は、健康な状態のどこがどのように変化したのか? ①その病気に至るプロセスは? ②その病気に特有の症状はどのようにして現れるのか? ③その部位の健康な働きはどのようなものか? 2 健康な状態から異常な状態への変化のプロセスを生活との関連でみる 1) 生活過程の特徴から、その患者の24時間の生活をイメージする	24	江藏 他
困生活 を拡大 する の障害 と行く 働き の範囲	運動機能の特徴とその障害を生活過程との関連で理解する。			
患へ免統 自疫一 己機体 能を 疫支 疾障 害る	人体が細胞やウイルスなどの外敵から自分を守るメカニズムについて理解し、破綻したときの障害を生活過程との関連で理解する。			
障す生 害命 働を 動を き維 の持	生命を維持する器官の特徴とその機能の障害を生活過程との関連で理解する。			

授業科目	病気の成り立ちと生活Ⅱ	担当講師	江藏 祥平 他	対象学年	2年生
				単位数(時間)	1(30)

項目	目標	内容	時間	担当
患(へす)食物を消化器系の障害吸収	細胞のつくりかえの土台となる食物摂取・消化・吸収・排泄の機能障害を生活過程との関連で理解する。	2) その病気が回復するために自然治癒力はどのように働いているのか? ①その病気の治療の意味は? ②その病気がどのような回復過程をたどるのか? ③その病気が回復するためにどのように自然治癒力が働いているのか?		
疾(へす)内部環境を維持する	内部環境の調整機能の障害を生活過程との関連で理解する。	3 回復促進のための生活調整の方向性 ※学習の詳細は、別に配付する。		
授業方法	講義、グループ学習			
評価方法	筆記試験 配点 田村：10点、嶋宮他：90点			
教科書 参考書 など	教科書：①看護のための疾病論 ナースが視る病気 薄井坦子 講談社 ②看護のための人間論 ナースが視る人体 薄井坦子 講談社 参考書：③看護の生理学(1) 人間をみる看護の視点 薄井坦子・瀬江千史 現代社 ④看護の生理学(2) 人間をみる看護の視点 薄井坦子・瀬江千史 現代社 ⑤患者理解への看護の視点 看護科学研究会・看護教育研究グループ 日本看護協会出版会 ⑥人体の構造と機能 黒川清・菱沼典子・北村聖 放送大学教育振興会 ⑦疾病の成立と回復促進 薄井坦子・竹中文良 放送大学教育振興会 ⑧ナイチンゲール看護論の科学的実践(4) 人間の持てる力に魅せられて 薄井坦子編 現代社			
備考	人間のからだと生活に興味を持ち、たくさん疑問をもって学習に臨んで欲しい。その疑問(?)を、なるほど(!)と思えるように学習できることを期待します。			

授業科目	健康障害と治療 I	担当講師	非常勤講師	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(30)
授業のねらい 健康障害をもつ対象の看護ができるようになるために、外科的治療の基礎と呼吸器・泌尿器の健康障害の病態生理・診断治療を理解する。					
授業計画					
時間	項目		担当	試験配分	
6	1 外科的治療 1) 外科的治療の基礎 2) 手術療法 3) 創傷治癒過程		非常勤講師	20点(18分)	
8	4 呼吸器系 (1) 症状と病態生理：咳嗽・喀痰・呼吸困難 (2) 検査と介助：画像診断・内視鏡検査・生検・肺機能検査 ・ガス交換機能検査 (3) 疾患の理解：結核・間質性肺炎 ・慢性閉塞性肺疾患(気管支喘息・慢性肺気腫)・肺腫瘍 (4) 主な治療：吸入療法・酸素療法・呼吸理学療法 ・呼吸器外科の手術(胸腔ドレナージ)		佐々木 高明 梅影 泰寛 南 幸範	30点(26分)	
6	5 腎・泌尿器 1) 症状と病態生理：尿の異常・浮腫・排尿障害 2) 検査：直腸診・腎機能検査・X線検査・経尿道的操作及び内視鏡検査 3) 主な治療：薬物療法(ホルモン療法)・手術療法		根本 勺	20点(18分)	
4	2 麻酔法 1) 全身麻酔 2) 局所麻酔 3) 伝達麻酔 4) 特殊な麻酔管理		黒川 博己	15点(14分)	
4	3 救急医療 1) 救急患者の観察と評価 2) 心肺蘇生法		服部 淳一	15点(14分)	
授業方法 講義					
評価方法	講義終了後の筆記試験				
教科書 参考書 など	教科書：系統看護学講座 専門基礎専門Ⅱ成人看護学 [2] 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門基礎専門Ⅱ成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座別巻 救急看護学 医学書院 系統看護学講座別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論 医学書院				
備考					

授業科目	健康障害と治療Ⅱ	担当講師	非常勤講師	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(30)
授業のねらい					
健康障害をもつ対象の看護ができるようになるために、運動器系・脳神経系・栄養代謝系の健康障害の病態生理・診断治療及びリハビリテーションの基礎知識を理解する。					
授業計画					
時間	項目			担当	試験配分
6	1 運動器 1) 症状と病態生理：疼痛・形態の異常・関節運動の異常・神経の障害 2) 診断・検査：計測（関節可動域・筋力）・画像検査（背髄造影を含む） ・筋電図・関節鏡 3) 主な治療：保存療法（牽引療法・ギプス固定など）・手術療法 4) 疾患の理解：①外傷性（骨折・脱臼・捻挫および打撲、神経の損傷） ②先天性疾患（斜頸、股脱・内反足） ③炎症性疾患（変形性関節炎・関節リウマチ） ④骨腫瘍（骨肉腫・がんの骨転移）⑤神経疾患（脳性まひ、ポリオ） ⑥脊椎の疾患（腰椎椎間板ヘルニア・二分脊椎・側弯症）			柳沢 勇一郎 福島 怜	20点(20分)
8	2 脳神経系 1) 症状と病態生理：意識障害・運動機能障害（運動麻痺・運動失調・けいれん） ・頭蓋内圧亢進・頭痛 2) 検査①神経学的検査（意識状態、運動系、脳神経系、反射系、高次脳機能） ②補助的検査（脳脊髄液検査・脳血管造影・CT・磁気共鳴画像・脳波検査） 3) 主な治療：①外科的治療（開頭術、穿頭術、脳室・腹腔短絡術） ②内科的治療（薬物治療、血漿交換療法） ③その他の治療（放射線治療法） 4) 疾患の理解：①脳疾患（脳血管障害・脳腫瘍・頭部外傷） ②神経筋疾患（重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー） ③脱髄・変性疾患（パーキンソン症候群）			齋藤 健	30点(26分)
8	3 内分泌代謝系 1) 症状とその病態生理：①全身・神経症状（意識障害、けいれん） ②循環器症状③消化器症状④局所症状 2) 検査：①内分泌疾患の検査 ②代謝疾患の検査：インスリン分泌能、インスリン抵抗性、合併症検査 3) 疾患の理解：①内分泌疾患：甲状腺疾患（バセドウ病、甲状腺機能低下症）、 副甲状腺疾患、副腎疾患（クッシング症候群） ②代謝疾患：糖尿病、肥満症とメタボリックシンドローム			佐々木 修	30点(26分)
6	4 リハビリテーション 1) リハビリテーションの定義と概念 (1) リハビリテーションの定義と目標 (2) リハビリテーションの分類 ①医学的 ②教育的 ③職業的 ④社会的 5 健康障害に応じたリハビリテーション 1) 運動器系の障害を持つ対象のリハビリテーション (1) 骨折（廃用症候群を含む） 2) 中枢神経系の障害を持つ対象のリハビリテーション (1) 脳血管疾患 (2) パーキンソン病 (3) 脊髄損傷 3) 呼吸・循環器系の疾患を持つ対象のリハビリテーション (1) 慢性閉塞性肺疾患 (2) 虚血性心疾患			尾形 涼	20点(18分)
授業方法					
講義					
評価方法	講義終了後の筆記試験				
教科書 参考書 など	教科書：系統看護学講座 専門基礎専門Ⅱ成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門基礎専門Ⅱ成人看護学 [7] 脳神経 医学書院 系統看護学講座 専門基礎専門Ⅱ成人看護学[10] 運動器 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院				
備考					

授業科目	健康障害と治療Ⅲ	担当講師	非常勤講師	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(30)
授業のねらい					
健康障害をもつ対象の看護ができるようになるために、消化器系・循環器系・女性生殖器・感染症の健康障害の病態生理・診断治療及び食事療法の基礎知識を理解する。					
授業計画					
時間	項目		担当	試験配分	
4	1 消化器系 1) 内科的治療 (1) 疾患の理解：肝炎・肝硬変・膵炎 (2) 検査：放射線検査・内視鏡の検査・腹部超音波検査 (3) 主な治療：食事療法・薬物療法・		安藤 勝祥 河端 秀賢	15点(14分)	
4	2) 外科的治療 (1) 疾患の理解：胃ガン・直腸ガン・胆石症 (2) 検査：放射線検査・内視鏡の検査・腹部超音波検査 (3) 主な治療：開腹手術・腹腔鏡下胆嚢摘出術・人工肛門造設術・内視鏡的ポリープ切除術		内山 素伸	13点(11分)	
2	2 女性生殖器 (1) 疾患の理解：乳癌 (2) 検査：マンモグラフィ、超音波検査、生検 (3) 主な治療：手術療法(乳房切除術、乳房温存術)		内山 素伸	7点(6分)	
10	3 循環器系 1) 症状と病態生理：胸痛、動悸、呼吸困難、浮腫、チアノーゼ、ショック 2) 検査と治療 (1) 主な検査：心電図、心エコー図、心臓カテーテル法 (2) 主な治療：内科的治療(薬物治療、ペースメーカー) 外科的治療(冠動脈バイパス術、弁置換術、大血管再建術) 3) 疾患の理解 (1) 虚血性心疾患：狭心症、心筋梗塞 (2) 心不全 (3) 血圧異常 (4) 不整脈 (5) 弁膜症		小川 裕二	35点(30分)	
4	4 感染症 1) 感染症とは 2) 検査・診断：塗抹・培養、抗原・抗体検査 3) 治療：薬物療法、一次予防と二次予防 4) 疾患の理解：インフルエンザ、HIV感染症、結核		有本 良夫	15点(14分)	
4	5 食事療法 1) 食事療法の意義・病人食の種類と形態・特殊栄養法 2) 循環器系及び腎疾患の食事療法		梅津 千恵子	15点(15分)	
授業方法					
講義					
評価方法	筆記試験				
教科書 参考書 など	教科書：系統看護学講座 専門基礎専門Ⅱ成人看護学〔3〕循環器 医学書院 系統看護学講座 専門基礎専門Ⅱ成人看護学〔5〕消化器 医学書院 系統看護学講座 専門基礎専門Ⅱ成人看護学〔9〕女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門基礎専門Ⅱ成人看護学〔11〕アレルギー-膠原病 感染症 医学書院 系統看護学講座別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座別巻 栄養食事療法 医学書院				
備考					

授業科目	臨床推論	担当講師	嶋宮 典子他	対象学年	2年生
				単位数(時間)	1(15)
授業のねらい 看護師は、対象に問診や観察を行い、対象に今何が起きているのかを推測し、緊急を要し対処が必要かあるいは様子を見てよい状態なのかなどを判断している。つまり、臨床の場面において、対象を目の前にしたときに、看護師は対象の状態を確認し、速やかに自己の行動を判断することが求められる。 この科目では、既習の解剖生理学、病理学、健康障害などの知識を元に、対象の状態を推論できる能力を養うことをねらいとする。					
授業計画					
時間	主題	項目		学習形態	
1～2	1 臨床推論の意義と方法	1) 臨床推論の目的 2) 臨床推論の方法		講義	
3～14	2 臨床推論の実際	1) 手術前の対象の状態を考える (1) どのような状態と予測するか (2) どんな情報が必要か (3) 問診、視診、触診、聴診の実施 (4) 情報をもとに対象の状態を推測する 2) 手術後の対象の状態を考える (1) どのような状態と予測するか (2) どんな情報が必要か (3) 問診、視診、触診、聴診の実施 (4) 情報をもとに対象の状態を推測する *成人看護学援助論Ⅲ手術療法を受ける看護課程の事例を基に演習する		GW 演習	
15	試験				
授業方法 主に演習をとおして学びます。 事前課題を行ってから演習を実施し、振り返りをします。 (事前課題→演習→リフレクション)					
評価方法	演習のレポート評価(60点)、筆記試験(40点)				
教科書 参考書 など	適時、参考となる文献について紹介する				
備考					

授業科目	薬理学	担当講師	東城 庸介	対象学年	1年生
				単位数(時間)	1(30)
授業のねらい					
<p>医療行為の多くは薬物療法によって行われている。薬物療法を受ける患者の看護ができるようになるために、薬はどのような作用を持つのか、どこに効くのか、なぜ効くのか(薬力学)を学ぶ。看護師が特に必要とする薬の知識は、患者の有害反応を素早く感知する力である。薬の毒性機序や体内での運命(薬物動態学)についても薬理学の中で習得する。</p>					
授業計画					
時間	項目				
28	<p>1 薬物学総論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬による病気の治療 2) 薬理学とはなにか 3) 薬が作用するしくみ(薬力学) 4) 薬の体内の挙動(薬物動態学) 5) 薬物相互作用 6) 薬物使用の有益性と危険性(有害作用) 7) 薬と法律 <p>2 薬理学各論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 抗感染症薬 2) 抗がん剤 3) 免疫治療薬 4) 抗アレルギー薬・抗炎症薬 5) 末梢での神経活動に作用する薬物 6) 中枢神経系に作用する薬物 7) 循環器系に作用する薬物 8) 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 9) 物質代謝に作用する薬物 10) 皮膚科用薬・眼科用薬 11) 救急の際に使用される薬物 12) 漢方薬 13) 消毒薬 				
授業方法					
講義					
評価方法	講義終了後の筆記試験100点				
教科書 参考書 など	<p>教科書：系統看護学講座 専門基礎分 疾病の成り立ちと回復の促進[4]薬理学 医学書院</p> <p>参考書：今日の治療薬 2023 南江堂</p>				
備考					

授業科目	臨床心理学	担当講師	寺崎 真一郎	対象学年	2年生
				単位数(時間)	1(30)
<p>科目の考え方</p> <p>看護の対象となる人間は、身体だけでなく心も様々なストレスによる影響を受け、心の状態も変化する。心理学で学んだ人間の心理や行動の特性をもとに、健康課題を持つ人々のストレスへの対処や受容の過程を学び、臨床における対象との人間関係を作り、支援していくための基礎を理解する。</p> <p>科目のねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康障害やストレスによる心理的反応と適応・不適応の過程を学ぶ 心理学的問題を有する対象への個別的援助方法の基礎を学ぶ 					
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床心理学とは何か 2. 身体とこころの関係性 3. 「聴く」ということ 4. ストレス理論 5. 疾患という考え方 6. 乳幼児期のこころ 7. 児童期のこころ 8. 思春期青年期のこころ 9. 青年期以降のこころ 10. ライフサイクルの臨床心理学 11. ト라우マを理解する 12. 様々な心理療法 13. 災害の中のこころの理解と支援 14. 事例から考える 15. 事例から考える 					
<p>授業方法</p> <p>講義・演習</p>					
評価方法	レポート課題 100点				
教科書 参考書 など	教科書は使用しません。各回プリントを配布します。 参考文献：面白いほどよくわかる「臨床心理学」 下山晴彦 西東社				
備考					

授業科目	医療概論	担当講師	丹下 貴司	対象学年	3年生
				単位数(時間)	1(15)
<p>授業のねらい</p> <p>近年、急激な社会の変化に伴い医療の概念が拡大し、医療の受け持つ範囲が広がり、医療従事者・受療者共に医療に対する価値観が多様化している。そのような社会の変化に対応するために、医療は医療関係の専門職だけでなく福祉関係などの関連する分野の職種と連携し、質の高い医療サービスを提供しなければならない。そのため医療概論では、医療全体を見渡す広い視野を養い、現代医療の問題と方向性を考える。</p> <p>目標</p> <p>質の高い医療サービスを提供するために、保健医療福祉における医療の役割・システム及びその連携の重要性を学び、現代医療の問題と方向性を考えることができる。</p>					
授業計画					
時間	項目			配点	
	<p>1 医療システム</p> <p>1) 医療を支える人々</p> <p>2) 医療サービスの提供体制</p> <p>3) 日本の医療保険制度</p> <p>4) 医療政策と医療計画</p> <p>5) 医療と経済</p> <p>6) 在宅ケアの推進</p> <p>7) 高齢者ケアシステム</p> <p>8) 急病になったら</p> <p>9) 災害医療</p> <p>10) 医療安全</p> <p>2 健康とは</p> <p>1) 健康の決定因子とヘルスプロモーション</p> <p>2) ヘルスプロモーションの科学</p> <p>3) 老人として生きる</p> <p>4) 精神を病むということ</p> <p>5) リハビリテーション</p> <p>6) ノーマライゼーションへの道</p>	<p>3 医療がたどってきた道と未来への展望</p> <p>1) 近代医学の誕生</p> <p>2) 日本の近代化と医療の発達</p> <p>3) 人口環境と健康問題</p> <p>4) 医療機器の発達</p> <p>5) 臓器移植の現状と課題</p> <p>6) ゲノム医学の登場</p> <p>7) 医療の国際化</p> <p>8) 補完代替医療から統合医療</p> <p>4 医療は誰のものか</p> <p>1) 現代医療がめざすもの</p> <p>2) 医療サービスと医学診断</p> <p>3) 医療と診療記録</p> <p>4) チーム医療の方法論</p> <p>5) 医療従事者と生命倫理</p> <p>6) 患者の権利</p> <p>7) 個人情報保護</p> <p>8) ターミナルケアの課題</p>	100点(45分)		
授業方法					
講義					
評価方法	授業の参加態度、筆記試験				
教科書 参考書 など	教科書：学生のための医療概論 第4版 千代豪昭・黒田研二 医学書院				
備考					

授業科目	公衆衛生学	担当講師	伊藤 俊弘 (10) 吉田 貴彦 (10) 神田 浩路 (8)	対象学年	1年生
				単位数 (時間)	1 (30)
授業のねらい					
<p>公衆衛生学は、自然科学としての医学を人間社会に適應する学問である社会医学の一分野であり、疾病の予防に取り組み、さらに、身体、精神、社会的な健康を維持・増進することに取り組む学問領域である。</p> <p>扱う対象は、臨床医学が疾病を持つ個々の患者であるのに対して、公衆衛生では、社会にあって様々な健康状態にありながら生活している一般の人々全てであり、個々の人々および集団への両方のアプローチが行われる。</p> <p>講義では、人々の健康の維持増進にかかわる広い視野の概念（保健・狭義の医療・福祉）について新しい概念に対応しつつ、国民の健康を扱う医療従事者としての素養を伸ばすことを念頭に置き授業を展開する。</p>					
授業計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1 健康であるということの概念や、それを維持・増進するための公衆衛生学の意義を理解する。 2 公衆衛生の状況を把握するための各種保健統計指標を理解する。 3 環境保健、有害因子による健康障害について理解する。 4 母子保健、学校保健、成人・老人保健、地域保健、職域保健、国際保健、精神保健などの各種保健活動について理解する。 5 我が国の医療（保健・狭義の医療・福祉）の現状について理解する。 					
授業方法					
<p>複数の教官により、項目毎に講義を行う。教科書及び参考書を使用するが、必要に応じてプリントを配布する。また、液晶プロジェクターを使用し理解を深める。</p>					
評価方法	筆記試験 100点				
教科書 参考書 など	教科書：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 医学書院 参考書：国民衛生の動向 厚生労働統計協会				
備考					

授業科目	社会福祉	担当講師	岩谷 智浩 紋別市役所職員	対象学年	2年生
				単位数(時間)	2(30)
授業のねらい					
<p>社会福祉は、現代社会において生み出されてくる生活問題に対して、国民の生存権を保障するための社会的な施策および活動として存在している。社会福祉の目的は、過程や地域の中で性別、年齢や障害の有無などにかかわらず、人間らしい生活を送ることができるように支え合うことである。</p> <p>現在、人口の少子高齢化、生活習慣病の増加などの社会の変化を受けて保健医療福祉領域では地域での支援体制の確立が必要になってきた。</p> <p>看護も施設から地域へ活動範囲を広げ、福祉領域との接点を持ちながら活動することが必要になってきた。この講義では社会福祉の目的・対象・方法を学んでいくとともに、住民、患者の生活の場である地域特性をふまえた専門職としての活動の必要性、行政の役割についても学んでいく。これらを学ぶ中で福祉職との協働を目指して、看護職の役割を考えていく。</p>					
授業計画					
時間	項目		担当	試験配分	
14	1 社会福祉総論 1) 主体と対象・思想と原点 2) 社会福祉の流れ 3) 国民生活と福祉二ーズ		岩谷 智浩	100点 45分	
2	2 社会福祉各論		紋別市役所職員	14点 7分	
2	1) 社会保障論		紋別市役所職員	14点 7分	
2	2) 障害者福祉論		紋別市役所職員	14点 6分	
2	3) 児童・母子福祉論		紋別市役所職員	14点 6分	
2	4) 高齢者福祉論		紋別市役所職員	14点 6分	
2	5) 社会福祉協議会の役割		岩谷 智浩	30点 13分	
2	6) ボランティア論				
授業方法					
講義					
評価方法	全授業終了後試験				
教科書 参考書 など	教科書：系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 医学書院 参考文献：「アンビシャス社会学」（櫻井義秀/飯田敏郎/西浦功編著、北海道大学出版会、2014				
備考					

授業科目	関係法規	担当講師	宮下 尚也 柴田 麻未 北澤 静江		対象学年	3年生
			単位数(時間)	2(30)		
授業のねらい 看護者が職業人として責任を果たすためには、我が国における保健医療福祉に関する諸制度の概要を理解し、保健師・助産師・看護師はどういう位置をしめ、どういう役割を担っているのかを明確に認識する必要がある。さらにその業務は、人間の命に直接関係するものである。看護に携わる者は、国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するために、関係法規の理解を欠くことはできない。 そこで、関係法規を単に知識として理解するだけでなく他の科目で学んだこと、あるいは日常生活や看護学実習などでの経験と関連させながら学ぶ。 目標 職責の遂行および対象の健康を守るために、看護に必要な法令を理解する。						
授業計画						
時間	項目			担当	試験配分	
4	1 法の概念 2 労働環境と法律 労働基準法、労働環境衛生法 3 医療過誤判例 1) 発生要因(過失) 2) 適応される法律 3) 看護師としての責任			紋別ひまわり基金 法律事務所弁護士 宮下 尚也	30点 15分	
2	1 医事法(保健師助産師看護師法は除く) 1) 医療を担う場に関するもの: 医療法 2) 医療を担う人に関するもの: 医療関係資格法 3) その他、臓器移植に関するものなど 2 薬務法 1) 薬事一般: 薬事法 2) 薬事を行う人に関するもの: 薬剤師法 3) 毒物・劇物の取り締まりに関するもの: 毒物及び劇物取締法 4) 麻薬・覚醒剤の取り締まり 3 環境衛生法 1) 食品衛生に関するもの 2) 生活環境の整備改善に関するもの 3) 環境保全・公害防止に関するもの 4 予防衛生法規 1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律			柴田 麻未	70点 30分	
2	1 地域保健法 2 健康増進法 3 疾病に関する法律: がん対策基本法、肝炎対策基本法など					
2	1 社会福祉法 2 生活保護法 3 老人福祉法 4 介護保険法 5 個別的な高齢者法					
2	1 精神保健福祉法 2 障害者基本法 3 障害者総合支援法 4 個別的な障害者法					
2	1 児童福祉法 2 個別的な児童法 3 学校保健安全法 4 母子保健法 5 母体保護法 6 母性保護に関する法律					
14	2 保健師助産師看護師法 1) 医療法と看護職員 2) 業務と法的責任 3) 医療過誤と事故防止対策 3 看護師など人材確保の促進に関する法律			北澤 静江	100点 45分	
授業方法 講義、グループワーク						
評価方法	筆記試験					
教科書 参考書 など	教科書: 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[4]看護関係法令 医学書院 参考書: 看護六法					
備考						